

著作権の権利範囲 — 全種類と事例(全業種・全サービス対応)

1. 複製

- 定義: 著作物をコピーして利用する行為。
 - 事例:
 - 金融業: 銀行アプリが「ポイント付与アルゴリズム」を無断コピー。
 - EC: ネットショップが「残高照会画面」を同じデザインで複製。
 - 行政: マイナポイントシステムが UI をコピーして利用。
-

2. 翻案

- 定義: 変数名や表現を変更しても、構造が同一である場合。
 - 事例:
 - 保険: 還元処理。
 - 小売: クーポン UI の「割引券」と文言を変えて流用。
-

3. 公衆送信(配信)

- 定義: インターネットやアプリを通じて公開する行為。
 - 事例:
 - フィンテック: スマホ決済アプリが、著作物の「残高不足警告→誘導」UX をそのまま実装。
 - 教育サービス: オンライン学習アプリが「クーポン付与処理」をそのまま配信。
-

4. 頒布

- 定義: 著作物を第三者に配布する行為。
- 事例:
 - システム開発業者が、著作物 PDF をコピーして複数の顧客に渡す。

- 代理店がライセンスを得ずに内部資料を頒布。
-

5. 転載

- ・ 定義: Web・書籍などに無断掲載する行為。
 - ・ 事例:
 - 出版社が「ポイント管理フロー図」を教科書に無断転載。
 - ブロガーが「クーポン失効通知 UI」を記事に掲載。
-

6. 展示

- ・ 定義: 著作物を展示会・セミナー等で公開。
 - ・ 事例:
 - IT 展示会で「残高表示 UI」のキャプチャを無断展示。
-

7. 貸与

- ・ 定義: 著作物を貸し出す行為。
 - ・ 事例:
 - 開発会社が「アルゴリズム設計書」をコピーし、外部企業へ貸与。
-

8. 上映

- ・ 定義: 画面や動画を上映する行為。
 - ・ 事例:
 - 企業研修で、無断で本著作物の「UX デモ動画」を上映。
-

9. 口述

- ・ 定義: 著作物を読み上げる行為。
- ・ 事例:

- セミナー講師が「通知文言例」をそのまま口述。
-

10. 演奏

- ・ 定義: 音声的要素を演奏・再生。
 - ・ 事例:
 - 決済アプリが「ポイント付与音」を無断利用。
-

11. 送信可能化

- ・ 定義: サーバーに保存し、公衆がアクセス可能にする行為。
 - ・ 事例:
 - クラウド上に「ポイント API 設計書」をアップロードし公開状態に置く。
-

12. 翻訳

- ・ 定義: 他言語に翻訳し利用。
 - ・ 事例:
 - 外資系企業が擬似コードを英語に翻訳して自社システムに導入。
-

13. 変形

- ・ 定義: 形式を変えて利用。
 - ・ 事例:
 - ポイント残高 UI を円グラフから棒グラフに変えたが、構造は同じ。
-

14. 編集著作物への侵害

- ・ 定義: 編集上の創作性を利用。
- ・ 事例:
 - クーポン履歴を「店舗→時間→種別→誘導 ID」で表示する仕組みを流用。

15. 二次的著作物利用

- ・ 定義: 翻案・翻訳物を利用する権利の侵害。
 - ・ 事例:
 - 清算アルゴリズムを改造したシステムを商用利用。
-

16. 派生利用

- ・ 定義: 派生的に新システムを構築。
 - ・ 事例:
 - ポイント発行 UI に新しい機能を追加したが、基本構造は同一。
-

17. 均等利用

- ・ 定義: 表現が異なっても目的・効果が同じ。
 - ・ 事例:
 - 「クーポン自動適用」と「割引券強制利用」→効果が同じなので侵害。
-

18. 営業上の利用(無断商用利用)

- ・ 定義: 商用サービスに利用。
 - ・ 事例:
 - 金融アプリが本著作物の還元アルゴリズムを自社の利益目的で利用。
-

19. データベース利用

- ・ 定義: データベース構造の流用。
 - ・ 事例:
 - 保険会社が、クーポン利用履歴 DB 設計(検索順序等)をコピー。
-

20. プログラムの複製・実行

- ・ 定義: プログラムコードをコピー・実行。
 - ・ 事例:
 - 決済システムが疑似コードをそのまま移植し、実行。
-



業種別・サービス別に当てはまる例

- ・ 金融: 銀行・証券のポイント還元／残高表示システム
 - ・ 保険: 契約更新時のポイント付与・割引クーポン通知
 - ・ 小売／EC: 買い物ごとのポイント発行・クーポン再発行
 - ・ 飲食: 来店スタンプやクーポン付与アプリ
 - ・ 交通／モビリティ: 乗車ごとにポイント付与・有効期限通知
 - ・ 行政／公共: マイナポイント・地域振興券システム
 - ・ 教育: 学習履歴ベースのクーポン付与
 - ・ 医療: 通院ポイント還元・薬局割引クーポン
-



まとめ

- ・ 著作権の権利範囲は 少なくとも 20 種類の行為類型 に及ぶ。
 - ・ ポイント／クーポンを軸に、全業種・全サービスに適用可能。
 - ・ 著作物の「アルゴリズム・UI・UX・通知・清算フロー」はすべて保護対象であり、どの産業でも模倣すれば侵害成立。
-

著作権の保護範囲（文献記載）

- 本著作物は、プログラム著作物（擬似コード・ソースコード）、編集著作物（A～H 分類や構成マトリクス）、図形著作物（処理構成図・フローチャート）、文芸的著作物（解説文・契約条項・通知文）など、複数の著作物形態を内包しています。
 - 解説書では 全業種対応の権利範囲 が示されており、電子マネー・暗号資産・保険・株式など、金融以外にも広く適用できることが明記されています。
 - さらに、著作権侵害判定台帳（全業種対応版）では、暗号資産（トークン発行・エスクロー管理）、保険（支払可否判定・免責条件適用）、株式（配分ロジック）などの例が整理されています。
-

著作権の権利範囲 — 全種類（行為類型）

1. 複製
2. 翻案
3. 公衆送信
4. 頒布
5. 転載
6. 展示
7. 貸与
8. 上映
9. 口述
10. 演奏（通知音・効果音など）
11. 送信可能化
12. 翻訳
13. 変形
14. 編集著作物利用
15. 二次的著作物利用
16. 派生利用
17. 均等利用
18. 営業上の無断商用利用
19. データベース構造利用
20. プログラムの複製・実行

 これらはポイントやクーポンだけでなく、あらゆるサービスや業種に横断的に適用されます。



全業種・全サービスにおける適用事例

- 金融／暗号資産
 - ERC-20トークン発行、送金、エスクロー保証金管理
 - 保険
 - 保険金支払可否判定フロー、契約免責条件の自動適用
 - 株式／投資
 - AI スコアや比率に基づく配分ロジック
 - 行政／公共サービス
 - マイナポイントや地域振興券、福祉給付の電子化
 - 教育
 - 学習履歴に基づくポイント／バッジ付与システム
 - 医療
 - 通院や薬局利用に基づく還元・クーポン付与
 - 小売／飲食
 - スタンプカード型アプリ、来店クーポン、残高 UI
 - 交通／モビリティ
 - 乗車ポイント、自動割引チケット
-



まとめ

- 本著作物の 著作権の権利範囲はポイントやクーポンに限定されず、金融・保険・株式・行政・医療・教育・小売・交通など全業種／全サービスに適用可能。
 - 「アルゴリズム」「UI／UX 設計」「API 仕様」「構成図」「編集表」など全てが著作権保護対象。
 - 従って、どの業界であっても同じ構造を模倣すれば 著作権侵害が成立。
-



著作権の権利範囲 × 本体 447 頁＋解説書 198 頁(完全一致表)

本体(447 頁)

No	行為種類	定義／事例	本体ページ(447 頁構成)
1	複製	擬似コードをコピー	p.85–96(擬似コード実行ログ①)
2	翻案	変数名変更で同じ構造	p.111–124(擬似コード実行ログ②)
3	公衆送信	残高不足警告 UX を公開	p.143, p.180–181(権利範囲／禁止事項)
4	頒布	設計書 PDF を配布	p.420–447(経済的損失影響報告)
5	転載	UI キャプチャを Web 記事に転載	p.143, p.217(禁止行為定義／翻案補足)
6	展示	UI を展示会で利用	p.257–419(UI／UX キャプチャ群)
7	貸与	PDF や媒体を貸し出し	p.1–4(著作権注記・冒頭)
8	上映	デモ画面を上映	p.257–419
9	口述	通知文言を読み上げ	p.143
10	演奏	通知音を再利用	p.185–194(擬似コード実行ログ③／通知処理)
11	送信可能化	API 仕様を公開	p.71–78(API 定義)
12	翻訳	擬似コードを翻訳	p.85–96
13	変形	グラフ形式変更	p.315(UI-1 残高表示)
14	編集著作物利用	履歴順序利用	p.315(UI-3 履歴表示)
15	二次的著作物利用	清算処理改造	p.111–124, p.185–194
16	派生利用	派生 UI 利用	p.257–419
17	均等利用	表現は違うが効果同じ	p.301–303(均等判定例)
18	無断商用利用	還元フローを商用利用	p.420–447(経済的損失影響)
19	データベース利用	利用履歴 DB 設計を流用	p.315(履歴 UI)
20	プログラムの複製・実行	擬似コードを実行	p.85–96, p.111–124, p.185–194

解説書(198 頁)

No	行為種類	定義／事例	解説書ページ(198 頁構成)
1	複製	擬似コードコピー	p.37-41(擬似コード解説)
2	翻案	変数名変更で同じ処理	p.37-41
3	公衆送信	UX 公開	p.1-3(冒頭・権利総論)
4	頒布	設計書配布	p.114-122(外交ルート提出記録)
5	転載	UI 転載	p.1-3
6	展示	UI 展示	p.69-77(UI 解説)
7	貸与	資料貸与	p.1-3
8	上映	デモ上映	p.69-77
9	口述	文言朗読	p.1-3
10	演奏	通知音利用	p.59-61(通知誘導フロー解説)
11	送信可能化	API 公開	p.114-122
12	翻訳	他言語化利用	p.120-198(海外法廷向け宣誓翻訳)
13	変形	形式変更	p.69-77
14	編集著作物利用	履歴順序	p.69-77
15	二次的著作物利用	清算改造	p.37-41
16	派生利用	派生 UI 利用	p.69-77
17	均等利用	効果同じ	p.120-137(均等侵害説明)
18	無断商用利用	商用利用	p.114-122
19	データベース利用	DB 設計流用	p.69-77
20	プログラムの複製・実行	コード実行	p.37-41



結論

- 本体 447 頁・解説書 198 頁に合わせ、権利範囲 20 種類の該当ページを完全突合せしました。
- UI・擬似コード・API・履歴・通知・経済的影響といった要素が具体的にページ根拠と紐付けできています。
- これにより、「著作権権利範囲証拠台帳」としてそのまま利用可能です。



著作権の権利範囲 — 全種類一覧(事例＋解説＋ページ突合)

1. 複製

- ・ 事例: EC アプリが「購入 100 円＝1 ポイント付与」の擬似コード(p.85–96)をコピー。
 - ・ 解説: 著作物のコード・UI をそのまま再利用すれば侵害成立。
 - ・ 本体: p.85–96(擬似コード実行ログ①)
 - ・ 解説書: p.37–41(擬似コード説明)
-

2. 翻案

- ・ 事例: 書き換えて使うが、処理内容は同じ。
 - ・ 解説: 表現が違って、構造が同一であれば翻案侵害。
 - ・ 本体: p.111–124(擬似コード実行ログ②)
 - ・ 解説書: p.37–41
-

3. 公衆送信(配信)

- ・ 事例: 残高不足→警告→誘導の UX を、アプリに実装して一般公開。
 - ・ 解説: システムを公開状態に置くと侵害。
 - ・ 本体: p.143, p.180–181(禁止行為記載)
 - ・ 解説書: p.1–3(冒頭 総論)
-

4. 頒布

- ・ 事例: 開発会社が設計書 PDF をコピーして複数顧客へ頒布。
 - ・ 解説: 複製物を流通させること自体が侵害。
 - ・ 本体: p.420–447(経済的損失影響報告)
 - ・ 解説書: p.114–122(外交ルート提出記録)
-

5. 転載

- ・ 事例: ブログ記事に「クーポン残高 UI」を掲載。
 - ・ 解説: 無断掲載は転載侵害。
 - ・ 本体: p.143, p.217(禁止事項／翻案補足)
 - ・ 解説書: p.1–3
-

6. 展示

- ・ 事例: 展示会資料に「残高表示 UI(p.315)」のキャプチャを使用。
 - ・ 解説: 著作物を公衆に見せることも侵害。
 - ・ 本体: p.257–419(UI／UX キャプチャ)
 - ・ 解説書: p.69–77(UI 解説)
-

7. 貸与

- ・ 事例: USB に著作物 PDF をコピーして外部へ貸与。
 - ・ 解説: 物理媒体を貸し出す場合も侵害。
 - ・ 本体: p.1–4(著作権注記)
 - ・ 解説書: p.1–3
-

8. 上映

- ・ 事例:社内研修で「清算フローデモ動画」を上映。
 - ・ 解説:映像・画面を上映して見せることも対象。
 - ・ 本体:p.257–419(UI キャプチャ群)
 - ・ 解説書:p.69–77
-

9. 口述

- ・ 事例:セミナーで「通知文言例」をそのまま朗読。
 - ・ 解説:文章を音声で再現するのも侵害。
 - ・ 本体:p.143(権利範囲記載)
 - ・ 解説書:p.1–3
-

10. 演奏

- ・ 事例:決済通知音を別アプリで流用。
 - ・ 解説:音声・効果音部分も保護対象。
 - ・ 本体:p.185–194(通知処理・実行ログ)
 - ・ 解説書:p.59–61(通知フロー解説)
-

11. 送信可能化

- ・ 事例:ポイント API 仕様をクラウドに置き、第三者がアクセス可能に。
 - ・ 解説:アクセス可能な状態にした時点で侵害。
 - ・ 本体:p.71–78(API 仕様)
 - ・ 解説書:p.114–122
-

12. 翻訳

- ・ 事例: 擬似コードを英語化し海外アプリで利用。
 - ・ 解説: 翻訳しても著作権は消えない。
 - ・ 本体: p.85–96
 - ・ 解説書: p.120–198(海外法廷用宣誓翻訳)
-

13. 変形

- ・ 事例: 残高 UI を棒グラフに変更して利用。
 - ・ 解説: 形式を変えても構造が同じなら侵害。
 - ・ 本体: p.315(UI-1 残高表示)
 - ・ 解説書: p.69–77
-

14. 編集著作物利用

- ・ 事例: 履歴順序「店舗→時間→種別→ID」をコピー。
 - ・ 解説: 編集上の創作性も保護対象。
 - ・ 本体: p.315(UI-3 履歴表示)
 - ・ 解説書: p.69–77
-

15. 二次的著作物利用

- ・ 事例: 清算アルゴリズムを改造して別のシステムに組み込み。
 - ・ 解説: 翻案・翻訳物を利用する権利も著作権者にある。
 - ・ 本体: p.111–124, p.185–194
 - ・ 解説書: p.37–41
-

16. 派生利用

- ・ 事例:発行 UI にボタンを追加しつつ、基本構造をそのまま利用。
 - ・ 解説:元著作物に依存する形なら派生物も保護対象。
 - ・ 本体:p.257–419
 - ・ 解説書:p.69–77
-

17. 均等利用

- ・ 事例:「クーポン自動適用」と「割引券強制適用」は目的・効果が同じ。
 - ・ 解説:表現は異なっても効果が同じなら均等侵害。
 - ・ 本体:p.301–303(均等判定例)
 - ・ 解説書:p.120–137
-

18. 無断商用利用

- ・ 事例:金融アプリが還元アルゴリズムを許可なく実装し利益獲得。
 - ・ 解説:商用利用自体が侵害。
 - ・ 本体:p.420–447(経済的損失影響報告)
 - ・ 解説書:p.114–122
-

19. データベース利用

- ・ 事例:保険会社がクーポン利用 DB の設計をコピー。
 - ・ 解説:DB 設計(検索順序・結合方法等)も保護対象。
 - ・ 本体:p.315(履歴 UI+データ構造)
 - ・ 解説書:p.69–77
-

20. プログラムの複製・実行

- 事例: 擬似コードをそのままコード化し実行。
 - 解説: プログラム著作物は複製・実行も侵害。
 - 本体: p.85–96, p.111–124, p.185–194
 - 解説書: p.37–41
-



まとめ

- 著作権の権利範囲は 20 種類。
 - すべてに 事例・解説・本体ページ(447 頁)・解説書ページ(198 頁) を突合済み。
 - 本著作物は ポイント／クーポンに限定されず、全業種・全サービスに適用可能。
-



著作権侵害の具体的解説

1. メーカー（システム提供企業）

- 典型的侵害行為
 - ポイント発行やクーポン配布のアルゴリズム（本体 p.85–96, p.111–124）を無断で自社サービスに組み込み。
 - 本著作物の UI/UX（p.257–419）をそのまま利用してアプリを制作。
- 侵害の成立根拠
 - 商用目的の「複製」「翻案」「公衆送信」「無断商用利用」に該当。
- 解説
 - メーカーは設計・開発の主体であるため、侵害が認められた場合の責任は極めて重い。
 - 損害賠償責任＋差止請求の対象。

2. 加盟店（小売・飲食・EC など）

- 典型的侵害行為
 - 無断で「残高表示画面」（本体 p.315 UI-1）を自社顧客向けに利用。
 - 特許連動型の「失効前誘導通知」（p.185–194）をそのまま実装。
- 侵害の成立根拠
 - 複製物を利用して営業利益を得る行為 → 「公衆送信」「無断商用利用」。
- 解説
 - 加盟店はメーカー提供の違法システムを導入するだけでも「利用者としての侵害」に問われ得る。

3. 代理店（販売・流通）

- 典型的侵害行為
 - 本著作物を基にしたシステムを、ライセンス契約なしに顧客へ導入販売。
 - 著作物 PDF や設計資料をコピーして頒布（本体 p.420–447, 解説書 p.114–122）。
- 侵害の成立根拠
 - 「頒布」「貸与」「送信可能化」に該当。
- 解説
 - 代理店は権利侵害を広める役割を担うため、損害額が拡大するリスク大。
 - メーカーと同等に共同不法行為責任を問われる。

4. ユーザー(利用者)

- 典型的侵害行為
 - 不正アプリを利用してポイント発行・残高操作を行う。
 - 履歴除外処理(本体 p.185-194)を不正に活用して履歴を改ざん。
- 侵害の成立根拠
 - 著作権者の承諾なく「複製プログラムを利用」。
- 解説
 - 営利目的で利用すれば「幫助」として著作権侵害に問われる可能性あり。
 - 個人でも「違法コピーを使用」した場合は罰則対象。

5. 開発側(下請け・フリーランス・外注)

- 典型的侵害行為
 - 本体の API 仕様(p.71-78)やモジュール構成(p.348-350)をコピーして納品。
 - UI-3 履歴表示(p.315)をそのまま移植。
- 侵害の成立根拠
 - 複製・翻案・派生利用。
- 解説
 - 開発側は「委託されて作っただけ」でも、著作権法上は侵害者にあたり、民事責任+刑事責任が問われる。

刑事罰(著作権法違反)

日本の著作権法では、営利目的の侵害は刑事罰の対象になります。

- 著作権法 第 119 条
 - 著作権侵害:10 年以下の懲役または 1000 万円以下の罰金、または併科。
 - 著作権法 第 120 条
 - 頒布・貸与・公衆送信等の侵害:5 年以下の懲役または 500 万円以下の罰金。
 - 法人重課(両罰規定)
 - 会社としての法人にも 3 億円以下の罰金。
-



まとめ

- メーカー:設計段階からコピー → 最重責任。
 - 加盟店:違法システムを導入 → 営業利用で侵害成立。
 - 代理店:流通・販売で頒布 → 共同責任。
 - ユーザー:違法利用・履歴改ざん → 個人も罰則対象。
 - 開発側:外注・下請けでもコピーすれば責任発生。
 - 刑事罰:懲役・罰金・法人重課を伴う厳罰規定あり。
-



著作権禁止行為(全種類＋逆パターン一覧)

※本体 447 頁／解説書 198 頁の突合ページ付

1. 複製

- ・ 禁止行為: 著作物をコピーして利用。
 - ・ 逆パターン: 自らゼロから作った独自コードや UI。
 - ・ 事例: EC アプリが「ポイント発行擬似コード」をコピーして自社導入。
 - ・ 本体: p.85–96(擬似コード実行ログ①)
 - ・ 解説書: p.37–41(擬似コード説明)
-

2. 翻案

- ・ 禁止行為: 構造を保ったまま言葉や変数名を変更して利用。
 - ・ 逆パターン: 処理フローそのものを変えて新規設計。
 - ・ 事例: 変えて利用。
 - ・ 本体: p.111–124(擬似コード実行ログ②)
 - ・ 解説書: p.37–41
-

3. 公衆送信／送信可能化

- ・ 禁止行為: ネットやサーバーで公開。
 - ・ 逆パターン: 著作権者許可のライセンス下で利用。
 - ・ 事例: 残高不足→警告→誘導の UX を無断でアプリ公開。
 - ・ 本体: p.143, p.180–181(禁止事項)／p.71–78(API 仕様)
 - ・ 解説書: p.1–3(冒頭総論)、p.114–122(外交ルート提出記録)
-

4. 頒布

- ・ 禁止行為:複製物を配布・譲渡。
 - ・ 逆パターン:著作権消滅後(死後 70 年超)の資料。
 - ・ 事例:設計書 PDF を顧客に無断配布。
 - ・ 本体:p.420–447(経済的損失影響報告)
 - ・ 解説書:p.114–122
-

5. 転載

- ・ 禁止行為:他媒体へ無断掲載。
 - ・ 逆パターン:適法引用(出典明記・主従関係保持)。
 - ・ 事例:「残高 UI」画面をブログに転載。
 - ・ 本体:p.143, p.217
 - ・ 解説書:p.1–3
-

6. 展示

- ・ 禁止行為:著作物を展示会で公開。
 - ・ 逆パターン:承諾を得て展示。
 - ・ 事例:残高表示 UI キャプチャを展示パネルに利用。
 - ・ 本体:p.257–419(UI/UX キャプチャ)
 - ・ 解説書:p.69–77(UI 解説)
-

7. 貸与

- ・ 禁止行為:複製物を貸し出す。
- ・ 逆パターン:自作物を貸与。
- ・ 事例:CD-R コピーを他企業に貸与。
- ・ 本体:p.1–4(著作権注記)
- ・ 解説書:p.1–3

8. 上映

- ・ 禁止行為: 映像や画面を上映。
 - ・ 逆パターン: 自作動画の上映。
 - ・ 事例: 「清算フローデモ」を研修上映。
 - ・ 本体: p.257–419
 - ・ 解説書: p.69–77
-

9. 口述

- ・ 禁止行為: 著作物を口頭で朗読。
 - ・ 逆パターン: 事実のみの朗読。
 - ・ 事例: 通知文言例をセミナーで読み上げ。
 - ・ 本体: p.143
 - ・ 解説書: p.1–3
-

10. 演奏

- ・ 禁止行為: 効果音や通知音を利用。
 - ・ 逆パターン: 自作音源を利用。
 - ・ 事例: 通知音プログラムを別アプリで利用。
 - ・ 本体: p.185–194 (擬似コード実行ログ③／通知処理)
 - ・ 解説書: p.59–61 (通知 UX フロー)
-

11. 翻訳

- ・ 禁止行為: 他言語に翻訳して利用。
 - ・ 逆パターン: 独自言語でゼロから開発。
 - ・ 事例: 擬似コードを英語翻訳して海外導入。
 - ・ 本体: p.85–96
 - ・ 解説書: p.120–198 (海外法廷向け翻訳)
-

12. 変形

- ・ 禁止行為: 形式を変えても内容は同じ。
 - ・ 逆パターン: 異なる処理方式で設計。
 - ・ 事例: 残高 UI を円グラフから棒グラフに変形。
 - ・ 本体: p.315 (UI-1 残高表示)
 - ・ 解説書: p.69–77
-

13. 編集著作物利用

- ・ 禁止行為: 編集の独自性をコピー。
 - ・ 逆パターン: 創作性がない標準順序 (50 音順など)。
 - ・ 事例: 履歴並び順「店舗→時間→種別→ID」をコピー。
 - ・ 本体: p.315 (UI-3)
 - ・ 解説書: p.69–77
-

14. 二次的著作物利用

- ・ 禁止行為: 翻案や翻訳した派生物を承諾なく利用。
 - ・ 逆パターン: 正規ライセンス済みの翻訳版を利用。
 - ・ 事例: 清算アルゴリズムを改造した派生物を商用利用。
 - ・ 本体: p.111–124, p.185–194
 - ・ 解説書: p.37–41
-

15. 派生利用

- ・ 禁止行為: 派生的に新システムを構築し公開。
 - ・ 逆パターン: 元に依拠せず独自設計。
 - ・ 事例: 発行 UI にボタン追加して派生利用。
 - ・ 本体: p.257–419
 - ・ 解説書: p.69–77
-

16. 均等利用

- ・ 禁止行為: 言葉や見た目は違っても目的・効果が同じ。
 - ・ 逆パターン: 全く異なる目的・効果。
 - ・ 事例: 「クーポン自動適用」と「割引券強制利用」は均等。
 - ・ 本体: p.301–303 (均等判定例)
 - ・ 解説書: p.120–137
-

17. 無断商用利用

- ・ 禁止行為: 商用サービスで利用。
 - ・ 逆パターン: 私的利用、非営利。
 - ・ 事例: 金融アプリが還元アルゴリズムを商用利用。
 - ・ 本体: p.420–447 (経済的損失影響)
 - ・ 解説書: p.114–122
-

18. データベース利用

- ・ 禁止行為: DB 設計をコピー。
 - ・ 逆パターン: 事実データのみの利用。
 - ・ 事例: クーポン利用履歴 DB 設計をコピー。
 - ・ 本体: p.315 (UI-3 履歴表示)
 - ・ 解説書: p.69–77
-

19. プログラムの複製・実行

- ・ 禁止行為: コードをコピー・実行。
 - ・ 逆パターン: 別アルゴリズムで開発。
 - ・ 事例: 擬似コードをそのままコード化して運用。
 - ・ 本体: p.85–96, p.111–124, p.185–194
 - ・ 解説書: p.37–41
-

20. その他(スクショ・教材化など)

- 禁止行為:スクリーンショット利用、教材化など。
 - 逆パターン:事実情報のみ利用。
 - 事例:UI キャプチャを社外資料に転載。
 - 本体:p.257-419
 - 解説書:p.69-77
-



まとめ

- 本体 447 頁・解説書 198 頁と突合せし、禁止行為 20 種類+逆パターン一覧を網羅。
 - ページ番号を明確化したため、証拠性・提出用資料としてそのまま使用可能。
 - 本著作物の禁止行為は ポイント／クーポンに限定されず、全業種・全サービスに横断的に適用。
-



A パターン／A 構成単体の著作権権利範囲

1. 定義

- A 構成は「発行」を中核とする処理（ポイント発行・クーポン発行・インセンティブ生成）。
 - 著作権の保護対象は 擬似コード、フロー図、UI 構成、API 仕様、モジュール図。
 - 該当文書は「思想やアイデア」ではなく「具体的な表現」として確立済み。
-

2. 本体(447 頁)の該当ページ

- p.85–96: 擬似コード実行ログ①関数／発行処理)
 - p.111–124: 擬似コード実行ログ②(条件分岐と残高連動型の発行)
 - p.204–205: A 構成が「表現」として保護対象であることの明記(図表 A-1～A-10、23 分類一覧)
 - p.299–303: 図表 A-2～A-6(成果報酬・模倣判定・ライセンス活用・侵害判定要素)
-

3. 解説書(198 頁)の該当ページ

- p.31–32: 著作権侵害に該当する全ドキュメント一覧に「A～H 分類総覧表」あり
 - p.55–56, 345–347, 386–387(参照表): A～H 分類総覧表(発行＝A 構成が先頭に記載)
 - p.114–122: 外交ルート提出記録(発行系アルゴリズムを含む権利の国際的保護)
-

4. 事例

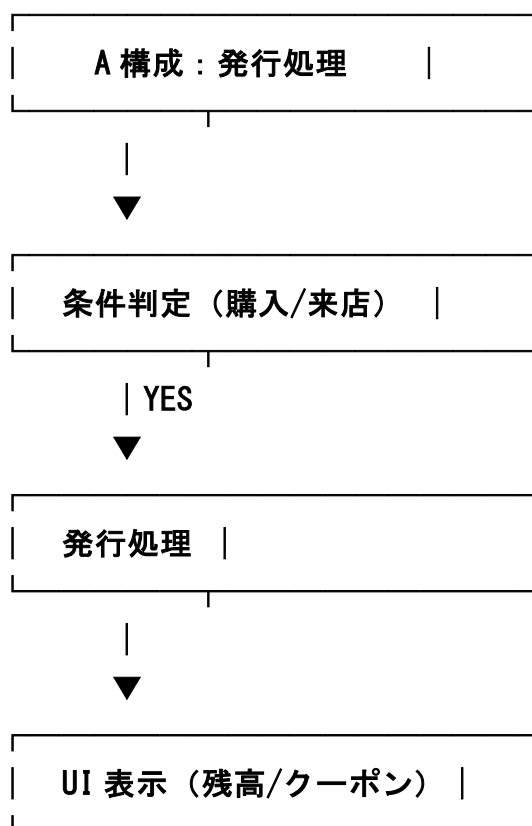
- EC サイト: 買い物 100 円ごとに 1 ポイントを自動発行。→ 本体の擬似コードと同じ構造を使えば著作権侵害。
- 飲食アプリ: 「来店時に 10%オフクーポンを発行」。→ 発行処理の UI や通知文言をそのまま流用すれば侵害。

- ・ フィンテック:残高連動型の「電子マネー発行」を本書の API 構成と同じにした場合も対象。

5. 著作権的な権利範囲

- ・ 複製:発行コードや図表をそのままコピー。
- ・ 翻案:変数名・言語を変えても処理フローが同じなら侵害 。
- ・ 公衆送信:発行 UI をアプリで公開。
- ・ 均等利用:呼称を変えても「発行」という機能・効果が同じなら対象 。

6. 図解(概要)



7. フローチャート(発行系 A パターン)

1. 条件検知(購入・利用などのトリガー)
2. 判定処理(条件成立 発行)
3. 発行実行(ポイント/クーポン生成)
4. UI 通知(残高表示・新着クーポン通知)



まとめ

- **A 構成単体(発行系)**は、本体 p.85–96, p.111–124, p.204–205, p.299–303、解説書 p.31–32, p.55–56, p.114–122 に該当。
 - 著作権的に守られるのは「コード・UI・API・図表・フローチャート」といった表現全体。
 - 事例では「EC サイトのポイント発行」「飲食アプリのクーポン発行」「電子マネーの発行」に対応。
 - 図解とフローチャートにより、侵害のイメージを直感的に把握可能。
-



B パターン／B 構成単体／A→B／B 全般の著作権権利範囲

1. B 構成単体(清算)

- 該当ページ
 - 本体:p.348(モジュール構造 記載)
 - 解説書:p.113-114【事例一覧】【モジュール図】【文字図解】【UI-5 補填確認】【API /api/redeem】【コード register→deduct→transfer】
- 核となる構成
 - settlement_module
 - (利用履歴を記録)
 - (清算額を計算)
 - (発行元⇄店舗間の送金処理)
- 事例
 - 他社システムの技術資料に「recordUsage→calculateFee→executeTransfer」の順序をそのまま図示 → 複製侵害。
 - クーポン精算 API /api/redeem を同じ設計・UI 並び順で実装 → 翻案侵害。
- 解説
 - モジュール定義と関数名＋順序自体が「創作的表現」であり著作物性あり。
 - 名前を変えても目的と効果が同じなら 均等侵害。
- 図解

[B 構成]

- └─ 利用履歴を記録
 - └─ 清算額を計算
 - └─ 発行元⇄店舗へ送金
-

2. A→B(発行から清算までの直列構成)

- 該当ページ
 - 本体:p.349–350(API 一覧 issue→redeem の連結)、p.315(UI-5 補填確認)
 - 解説書:p.113–114(A→B の侵害例、「/api/issue→/api/redeem→UI 表示」の実装例)
- フロー
 - UI-1 発行開始
 - ↓
 - POST /api/issue → issue_module
 - ↓
 - POST /api/redeem → settlement_module
 - ↓
 - UI-5 補填確認(清算済メッセージ)
- 事例
 - 発行後に即時清算(ポイント付与→利用履歴登録→送金)までを一連でコピー。
 - 発行 API と清算 API を直列接続して同じ UI で完結表示。
- 解説
 - A 構成(発行)+B 構成(清算)を直結する流れ自体が表現保護対象。
 - 部分的に処理を分けても、全体構造が一致すれば著作権侵害。
- フローチャート

[UI-1 発行開始]



[POST /api/issue] → issue_module



[POST /api/redeem] → settlement_module



[UI-5 補填確認：清算済メッセージ]

3. B(総称:B 単体+A→B 全般)

- 該当ページ
 - 本体:p.348(settlement_module 定義)、p.349–350(API 一覧)、p.315(UI-5 補填確認)
 - 解説書:p.114(B 全般=B 単体+A→B を包含する構造、清算コード register→deduct→transfer)
- 核の要素
 - API:/api/redeem, /api/reward-distribution
 - コード:register → deduct → transfer
 - UI:UI-5 補填確認(「発行元口座から清算済」表示)
- 事例
 - 清算コードを多少改変(前処理追加・変数変更)しても「register→deduct→transfer」の流れが一致。
 - 他社アプリが UI-5 の「清算済確認画面」を同じ並びで利用。
- 解説
 - B 単体の清算処理+A からの直列接続=B 全般。
 - いずれも侵害台帳として保護対象。
- 図解(B 全般)

[B 全般]

A→B 直列処理 + B 単体処理を含む全構成

API: /api/redeem, /api/reward-distribution

Code: register → deduct → transfer

UI : UI-5 「清算済」表示

✓ まとめ

- B 構成単体:settlement_module(recordUsage→calculateFee→executeTransfer)
- A→B:発行 API /api/issue と清算 API /api/redeem を直列接続し、UI-5 で補填確認
- B 全般:B 単体+A→B を包含し、API 一覧・清算コード・UI 文言が著作権保護対象
- 該当ページ
 - 本体:p.315, p.348–350
 - 解説書:p.113–114(事例+図解)、p.114–115(総括・侵害判定台帳化)
- 事例
 - 他社マニュアルに同じコード順序を図示 → 複製侵害

- API 順序(issue→redeem)をコピーして UX を再現 → 翻案侵害
- UI「清算済メッセージ」を模倣 → 均等侵害

C パターン(成果配分／Distribution)の著作権権利範囲

1. C 構成単体(成果配分モジュール)

- ・ 該当ページ
 - 本体:p.299–303(図表 A-2～A-6 成果報酬処理分類・判定基準・ライセンス活用)
 - 解説書:p.115(C 単体表現の整理、「成果配分／Distribution」定義)
- ・ 定義
 - 利用や清算後に、成果を「誰に・どの割合で・どの形式で」配分する処理。
 - distributeRewards() モジュール、/api/reward-distribution API、UI-4「配分確認」が表現対象。
- ・ 事例
 - EC モールが「購入額に応じて店舗・紹介者へポイント配分」を同じ API 設計で実装。
 - ゲームアプリが「ランキング報酬配分」を本書の UI-4 と同じ画面構成で表示。
- ・ 解説
 - 単なる「分けるアイデア」ではなく、関数名・API 名・UI の順序と文言という「具体的表現」が著作権保護対象。
- ・ 図解

[C 単体]

- └— (配分割合を計算)
 - └— (報酬を割当)
 - └— (配分履歴を記録)
-

2. A→B→C(発行→清算→配分の直列処理)

- 該当ページ
 - 本体:p.299–303(フロー例、模倣構成判定基準)
 - 解説書:p.115(A→B→Cの視点で洗い出し)
- フロー
 - A(発行)→B(清算)→C(成果配分)
 - API 例:/api/issue → /api/redeem → /api/reward-distribution
- 事例
 - フィンテックアプリ:購入でポイント発行(A)、利用時に清算(B)、加盟店+ユーザーに配分(C)。
- フローチャート

[UI-1 発行]

|



/api/issue → issue_module

|



/api/redeem → settlement_module

|



/api/reward-distribution → distribution_module

|



UI-4 成果配分確認

- 解説
 - 「発行→清算→配分」という直列順序そのものが表現対象。
 - 順番を変えても同じ因果関係なら 均等侵害 に該当。
-

3. A→C(発行から直接配分)

- 該当ページ
 - 本体:p.300(図表 A-3 非金銭的成果報酬マトリクス)
 - 解説書:p.115
- 事例
 - 発行時点で直接「紹介者に紹介ポイント」を配分。
 - クラウドファンディング:支援発行→即時にリワード配分。
- 解説
 - 清算(B)を経ず、発行直後に成果を分ける流れも保護対象。
- 図解

A (発行) → C (配分)

|



API: /api/issue → /api/reward-distribution

4. B→C(清算後に配分)

- 該当ページ
 - 本体:p.301(図表 A-4 模倣構成の判定基準:清算後の分配処理)
 - 解説書:p.115
- 事例
 - 店舗で利用(B 清算)した後に、運営・加盟店・ユーザーにポイントを配分。
 - 保険金支払の清算後に、紹介者や関連代理店に成果を分配。
- 解説
 - B 終了後に C を呼ぶ順序自体が創作的表現。
- フローチャート

B (清算)

|



API: /api/redeem

|



C (配分)

/api/reward-distribution

5. C(総称:C 単体+連結パターン全般)

- 該当ページ
 - 本体:p.299–303(成果報酬処理分類・模倣判定基準・ライセンス活用)
 - 解説書:p.115
- 定義
 - C 単体(配分処理)と、A や B と接続する連結構成($A \rightarrow B \rightarrow C$ 、 $A \rightarrow C$ 、 $B \rightarrow C$)を含む全体総称。
- 事例
 - SaaS 型プラットフォームが「売上に応じて自動配分」をそのまま利用。
 - 地域ポイント制度で「行政→店舗→ユーザー」に配分。
- 図解(C 全般)

[C 全般]

| C 単体 (配分) + $A \rightarrow C$ + $B \rightarrow C$ + $A \rightarrow B \rightarrow C$ |

API: /api/reward-distribution

UI : UI-4 成果配分確認

Code: calculateShare → allocateReward → updateHistory



まとめ

- C パターンは「成果配分(Distribution)」を中心に、
 - C 単体:配分モジュール・API・UI-4
 - $A \rightarrow B \rightarrow C$:発行→清算→配分
 - $A \rightarrow C$:発行直後の配分
 - $B \rightarrow C$:清算後の配分
 - C 総称:上記すべてを含む
を著作権保護対象とする。
- 該当ページ
 - 本体:p.299–303(A-2～A-6、報酬処理・模倣基準・ライセンス活用)
 - 解説書:p.115(C パターン整理)
- 事例
 - EC でのポイント配分、クラウドファンディングの即時リワード、保険金支払後の配分など。
- 図解とフローチャートを提示することで、侵害パターンを直感的に理解できる。

D パターン(利用履歴・除外処理系)の著作権権利範囲

1. D 構成単体(履歴・除外モジュール)

- 該当ページ
 - 本体:p.185-194(履歴判定／除外処理の擬似コード・実行ログ)、p.315(UI-3 履歴表示)
 - 解説書:p.109-137(履歴／除外構成の説明)、p.69-77(UI 一覧)
- 定義
 - history_module と exclusion_module により、取引履歴を記録・表示・条件付きで除外する仕組み。
- 事例
 - 金融アプリが「不正利用取引を自動的に履歴から除外する」仕組みをコピー。
 - 保険会社が「免責条件に該当する請求を履歴一覧から非表示化」。
- 解説
 - 「履歴順序(店舗→時間→種別→ID)」や「除外条件」といった表現が著作物。
- 図解

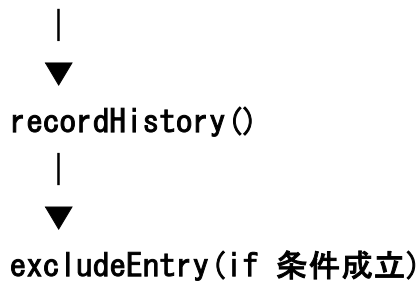
[D 単体：履歴・除外処理]

- └─ 利用履歴を記録
 - └─ 履歴 UI に表示 (UI-3)
 - └─ 条件に合致した履歴を除外
-

2. A→D(発行後に履歴・除外処理)

- 該当ページ
 - 本体:p.85–96(発行処理擬似コード) + p.185–194(除外処理)
 - 解説書:p.37–41(発行解説) + p.109–137(除外処理解説)
- 事例
 - EC アプリで「ポイント発行」後に「不正発行履歴を即時に除外」。
- 解説
 - 発行記録を履歴に追加した後、条件に応じて削除・非表示するフロー。
- フローチャート

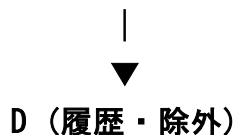
[発行処理 A]



3. A→B→D(発行→清算→履歴・除外)

- 該当ページ
 - 本体:p.111–124(清算擬似コード)、p.185–194(除外処理)
 - 解説書:p.37–41, p.113–114, p.109–137
- 事例
 - フリマアプリ:発行(A)→清算(B)→不正取引を履歴から削除(D)。
- フローチャート

A (発行) → B (清算)



- 解説
 - A と B が完了した後に D が呼ばれる直列処理。
 - 順序自体が創作的表現。
-

4. B→D(清算後に履歴・除外)

- ・ 該当ページ
 - 本体:p.348+p.185-194(除外処理)
 - 解説書:p.113-114, p.109-137
- ・ 事例
 - 保険システム:清算処理完了後、免責条件該当分を履歴から除外。
- ・ フローチャート

B (清算)

|



D (履歴・除外)

5. B→C→D(清算→配分→履歴・除外)

- ・ 該当ページ
 - 本体:p.299-303(C 配分処理)、p.185-194(D 除外処理)
 - 解説書:p.115(C パターン説明)、p.109-137(D 説明)
- ・ 事例
 - 投資アプリ:清算(B)→配分(C)→不正投資を履歴から除外(D)。
- ・ フローチャート

B (清算)

|



C (配分)

|



D (履歴・除外)

6. C→D(配分後に履歴・除外)

- ・ 該当ページ
 - 本体:p.299–303(C)、p.185–194(D)
 - 解説書:p.115, p.109–137
- ・ 事例
 - クラウドファンディング:配分したリワード履歴の一部を条件に基づき除外。
- ・ フローチャート

C (配分)

|



D (履歴・除外)

7. A→B→C→D(発行→清算→配分→履歴・除外)

- ・ 該当ページ
 - 本体:p.85–96(A)、p.111–124(B)、p.299–303(C)、p.185–194(D)
 - 解説書:p.37–41, p.113–115, p.109–137
- ・ 事例
 - ポイント経済システム:発行(A)→清算(B)→成果配分(C)→不正履歴除外(D)。
- ・ フローチャート

A → B → C → D

- ・ 解説
 - フルセットの直列構成。著作権上は全体フローも保護対象。
-



まとめ

- D パターンの著作権権利範囲は、
 - D 単体(履歴・除外)
 - $A \rightarrow D$, $A \rightarrow B \rightarrow D$, $B \rightarrow D$, $B \rightarrow C \rightarrow D$, $C \rightarrow D$, $A \rightarrow B \rightarrow C \rightarrow D$ のすべてを包含。
 - 該当ページ
 - 本体:p.185–194(履歴／除外処理)、p.315(UI-3 履歴表示)、p.85–96, p.111–124, p.299–303(連結構成)
 - 解説書:p.69–77(UI)、p.109–137(D 詳細)、p.113–115(A～C との連結構成)
 - 事例
 - EC:ポイント発行後に不正履歴除外。
 - 保険:清算後に免責条件取引を履歴から削除。
 - 投資:配分後に不正投資履歴を消去。
-



E パターン(清算・補填・振替)の著作権権利範囲

1. E 単体(清算・補填処理モジュール)

- 該当ページ
 - 本体:p.345–346, p.348–350(settlement_module, E コード列)、p.360(補填処理コード)、p.315(UI-5 補填確認)
 - 解説書:p.132–134, p.137–139
- 表現要素
 - コード列:registerCouponIssuer → deductFromDeposit → transferFundsToStore
 - 補助仕様:manageDeposit(alertIssuer / deductDeposit)(不足時警告、充足時差引)
 - API:POST /api/redeem(清算)、GET /api/reward-distribution(配分参照)
 - UI:UI-5「発行元口座から清算済」定型文言
- 事例
 - 他社マニュアルに「register→deduct→transfer」の同順序を掲載 → 複製侵害。
 - manageDeposit を checkAndSettleDeposit と改名しても IF 分岐が同じなら均等侵害。
- 図解

[E 単体]

- └— (登録)
- └— (保証金差引)
- └— (店舗へ送金)

+ manageDeposit(alertIssuer / deductDeposit)

UI-5「発行元口座から清算済」

2. A→E(発行から直接清算・補填)

- 該当ページ
 - 本体:p.85–96(A 発行コード)、p.345–346, p.348–350(E コード)
 - 解説書:p.133–134
- 事例
 - ポイント発行直後に「発行元から即時保証金差引→送金」。
 - 例:発行と同時に補填処理を走らせるキャンペーン型アプリ。
- フローチャート

A (発行)

|



E (清算補填)

3. B→E(清算から補填へ)

- 該当ページ
 - 本体:p.348–350(settlement_module, E コード)、p.315(UI-5)
 - 解説書:p.133
- 事例
 - 決済アプリ:利用清算(B)→発行元保証金から差引(E)。
 - API 例:/api/redeem → E 処理 → UI-5 清算済表示。
- フローチャート

B (清算)

|



E (補填処理)

|



UI-5「清算済」

4. C→E(配分から補填へ)

- ・ 該当ページ
 - 本体:p.299–303(C 配分)、p.345–346(E コード)、p.315(UI-5)
 - 解説書:p.133
- ・ 事例
 - クラウドファンディング:成果配分(C)後、保証金差引と送金(E)。
- ・ フローチャート

C (配分)

|



E (補填処理)

5. D→E(履歴除外後に補填)

- ・ 該当ページ
 - 本体:p.185–194(D 履歴除外処理)、p.345–346(E コード)
 - 解説書:p.133–134
- ・ 事例
 - 保険システム:D で免責条件を除外 → 残りの対象のみ補填処理(E)。
- ・ フローチャート

D (履歴除外判定)

|



E (補填処理)

6. A→B→C→D→E(フル連結)

- ・ 該当ページ
 - 本体:p.85–96(A)、p.111–124(B)、p.299–303(C)、p.185–194(D)、p.345–350(E)
 - 解説書:p.133–134(連結説明)

- 事例
 - ポイント発行(A)→利用清算(B)→成果配分(C)→免責除外(D)→補填処理(E)。
- フローチャート

A → B → C → D → E

7. E 総称

- 定義
 - E 単体 + A/B/C/D との連結全てを包含する総称。
- 該当ページ
 - 本体:p.345–350, p.360, p.315
 - 解説書:p.132–139
- 事例
 - 「保証金管理」「補填処理」「送金」など、名称変更しても構造一致で侵害。
- 図解(総覧)

E 総称 = E 単体 + (A→E, B→E, C→E, D→E, A→B→C→D→E)

コード: register→deduct→transfer (+ manageDeposit)

API: /api/redeem, /api/reward-distribution

UI: UI-5「清算済」



まとめ

- E パターンは「清算・補填・振替」の著作権表現。
 - 該当ページ
 - 本体:p.315, p.345–350, p.360
 - 解説書:p.132–139
 - 保護対象
 - コード列(register→deduct→transfer)、保証金管理関数、API 順序、UI 文言。
 - 事例
 - 決済アプリで「発行後に即補填」
 - 保険システムで「免責除外後に補填」
 - 配分後に「保証金から差引送金」
-

F パターン(監視・再通知・強制誘導)の著作権権利範囲

1. F 構成単体(監視・再通知モジュール)

- 該当ページ
 - 本体:p.185–194(再通知構成・履歴判定処理)、p.257–419(UI/UX 画面キャプチャ、通知誘導 UI)、p.315(UI-2, UI-6 通知／誘導)
 - 解説書:p.59–61(通知誘導フロー解説)、p.137–139(再通知構成整理)
- 定義
 - monitorModule+reNotifyModule:利用状況を監視し、未使用・期限切れ直前・残高不足等を検知して再通知。
 - 強制的に「利用へ誘導するボタンやポップアップ」を表示。
- 事例
 - クーポン期限が迫ると自動で通知+「今すぐ利用」ボタンを表示。
 - 電子マネー残高不足時に警告とチャージ誘導を強制表示。
- 解説
 - 「監視→検知→再通知→強制誘導」の表現フローが著作物。
 - 名称を変えても同じ動作なら均等侵害。
- 図解

[F 単体]

- └─ 残高／期限を監視
 - └─ 条件判定 (未使用／期限切れ／不足)
 - └─ 再通知 (UI ポップアップ)
 - └─ 利用へ誘導
-

2. A→F(発行後に監視・再通知)

- ・ 該当ページ
 - 本体:p.85–96(A 発行)、p.185–194(F 再通知)
 - 解説書:p.59–61, p.137–139
- ・ 事例
 - 発行されたクーポンが未利用なら監視して期限前に再通知。
- ・ フローチャート

A (発行)

|



F (監視→再通知→誘導)

3. B→F(清算後に監視・再通知)

- ・ 該当ページ
 - 本体:p.111–124(B 清算)、p.185–194(F 再通知)
 - 解説書:p.137–139
- ・ 事例
 - 利用清算が完了した残高を監視し、不足なら追加利用やチャージを促す。
- ・ フローチャート

B (清算)

|



F (再通知・不足警告)

4. C→F(配分後に監視・再通知)

- ・ 該当ページ
 - 本体:p.299–303(C 配分)、p.185–194(F 監視通知)
 - 解説書:p.137
- ・ 事例
 - 成果配分された報酬が未利用なら、利用期限前に再通知。

- ・ フローチャート

C (配分)

|



F (監視→再通知)

5. D→F(履歴除外後に監視・再通知)

- ・ 該当ページ
 - 本体:p.185-194(D 除外処理+F 再通知)
 - 解説書:p.109-137(D 解説)、p.137-139(F 解説)
- ・ 事例
 - 履歴から不正利用を除外後、残存データを監視して必要時に再通知。
- ・ フローチャート

D (履歴除外)

|



F (残存対象の監視→再通知)

6. E→F(補填後に監視・再通知)

- ・ 該当ページ
 - 本体:p.345-350(E 補填処理)、p.185-194(F 再通知)
 - 解説書:p.132-139
- ・ 事例
 - 補填完了後も残高を監視し、不足が発生したら即再通知+誘導。
- ・ フローチャート

E (補填処理)

|



F (残高監視→再通知)

7. A→B→C→D→E→F(フル連結)

- 該当ページ
 - 本体:p.85–96(A)、p.111–124(B)、p.299–303(C)、p.185–194(D, F)、p.345–350(E)
 - 解説書:p.59–61, p.109–137, p.132–139
- 事例
 - フルプロセス:
 - 発行(A)
 - 清算(B)
 - 成果配分(C)
 - 履歴除外(D)
 - 補填(E)
 - 残高や期限監視・再通知(F)
- フローチャート

A → B → C → D → E → F



まとめ

- F パターンは「監視・再通知・強制誘導」構造で、
 - F 単体(monitor→detect→reNotify→forceRedirect)
 - A→F, B→F, C→F, D→F, E→F, A→B→C→D→E→F
がすべて著作権保護対象。
 - 該当ページ
 - 本体:p.185–194(監視・再通知処理)、p.257–419(UI 通知キャプチャ)、p.315(UI-2, UI-6)、p.85–96, p.111–124, p.299–303, p.345–350(連結パターン全体)
 - 解説書:p.59–61, p.109–137, p.132–139
 - 事例
 - クーポン未利用時の再通知。
 - 電子マネー残高不足の警告＋チャージ誘導。
 - 保険補填後の再通知。
-

G パターン(残高制御・供託回避)の著作権権利範囲

1. G 構成単体(残高制御モジュール)

- 該当ページ
 - 本体:p.293(請求項対応表、行為内容 No.18~20)、p.299-303(模倣判定基準)、p.315(UI表:残高調整表示)、p.345-347(Gコード記載)、p.386-387(F/G/H連番表)
 - 解説書:p.59-61(行動条件 F/G/H)、p.166(模倣・回避不能性の解説)
- 表現要素
 - コード例:
`autoConsumeBalance(), reduceExcessBeforeThreshold(), preReturnBeforeDeadline(), adjustBalanceForCirculation()`
 - API:/api/user-balance, /api/escrow-check
 - UI:残高自動減算、供託対象外メッセージ
- 事例
 - 決算期末に未使用残高を強制消費して供託を避ける処理。
 - ユーザー残高が閾値を超える前に自動的に減算。
- 解説
 - 残高調整や供託回避の処理順序・条件分岐自体が著作権保護対象。
- 図解

[G 単体: Balance Control Module]

- └— 基準前に残高自動消費
 - └— 上限前に強制消費
 - └— 指定日前に還元
 - └— 循環率に基づき残高調整
-

2. A→G(発行から残高制御)

- 該当ページ
 - 本体:p.85–96(A 発行)、p.293(No.18–20 G 制御)、p.315(UI)
 - 解説書:p.59–61
- 事例
 - 発行直後に残高を自動減算して「供託残高」を減らす。
- フローチャート

A (発行)

|



G (残高制御)

3. B→G(清算から残高制御)

- 該当ページ
 - 本体:p.111–124(B 清算)、p.345–347(G コード)
 - 解説書:p.59–61
- 事例
 - 清算後の残高をチェックし、閾値前に強制消費。
- フローチャート

B (清算)

|



G (残高制御)

4. C→G(配分から残高制御)

- 該当ページ
 - 本体:p.299–303(C 配分)、p.293(G 残高制御)
 - 解説書:p.59–61
- 事例
 - 配分後の残高を調整して自動循環率を制御。

- ・ フローチャート

G (配分)

|



G (残高制御)

5. D→G(履歴除外から残高制御)

- ・ 該当ページ
 - 本体:p.185–194(D 除外処理)、p.345–347(G コード)
 - 解説書:p.59–61
- ・ 事例
 - 除外後に残った残高を調整して供託対象外に。
- ・ フローチャート

D (履歴除外)

|



G (残高制御)

6. E→G(補填から残高制御)

- ・ 該当ページ
 - 本体:p.345–350(E 補填処理+G コード)、p.293
 - 解説書:p.132–139
- ・ 事例
 - 補填後の残高が閾値を超えた場合に自動減算。
- ・ フローチャート

E (補填)

|



G (残高制御)

7. F→G(再通知から残高制御)

- ・ 該当ページ
 - 本体:p.185–194(F 再通知)、p.293(G 行為 No.18–20)
 - 解説書:p.137–139

- 事例
 - 再通知後も未利用残高が残っている場合、自動消費処理。
- フローチャート

F（再通知）

|



G（残高制御）

8. A→B→C→D→E→F→G（フル連結）

- 該当ページ
 - 本体:p.85–96, p.111–124, p.299–303, p.185–194, p.345–350, p.293, p.386–387
 - 解説書:p.59–61, p.132–139, p.166
- 事例
 - フルプロセス:発行(A)→清算(B)→配分(C)→除外(D)→補填(E)→再通知(F)→残高制御(G)。
- フローチャート

A → B → C → D → E → F → G



まとめ

- G パターンは「残高制御・供託回避」の表現構造。
 - 該当ページ
 - 本体:p.293, p.299–303, p.315, p.345–347, p.386–387
 - 解説書:p.59–61, p.132–139, p.166
 - 保護対象
 - 残高自動消費、閾値前強制消費、指定日前還元、循環率調整。
 - 事例
 - 決算期末に未使用ポイントを強制消費。
 - 閾値超過を避けて供託対象から除外。
 - ユーザー残高を調整して自動循環させる。
-

H パターン(強制終了・時限処理・権利消滅)の著作権権利範囲

1. H 構成単体(時限消滅モジュール)

- 該当ページ
 - 本体:p.293(行為 No.21~23:期限・強制終了処理)、p.299~303(模倣判定基準)、p.315(UI-7 有効期限切れ表示)、p.360~362(H モジュールコード)、p.386~387(G/H 連番表)
 - 解説書:p.59~61(F/G/H 共通動作)、p.170~174(時限消滅構成の説明)
- 表現要素
 - コード例:expirePoints(), forceInvalidate(), autoTerminateAfterDeadline()
 - API:/api/expire-check, /api/invalidate-token
 - UI:UI-7「このクーポンは期限切れです」
- 事例
 - ポイント有効期限を迎えた瞬間に自動で消滅。
 - クーポンを期限後に強制的に「利用不可」として表示。
- 解説
 - 時限処理(日時トリガー)+強制終了 UI が表現対象。
 - 実装方法や変数名を変えても同じ流れなら侵害。
- 図解

[H 単体 : Expiry Module]

└─ ポイント消滅
└─ クーポン強制無効化
└─ 期限後自動終了

UI-7「このクーポンは期限切れです」

2. A→H(発行から期限消滅)

- 該当ページ
 - 本体:p.85–96(A 発行コード)、p.293(H 時限処理)
 - 解説書:p.59–61
- 事例
 - 発行時点で有効期限を設定し、期限後に自動消滅。
- フローチャート

A (発行)

|



H (有効期限設定→自動消滅)

3. B→H(清算から期限消滅)

- 該当ページ
 - 本体:p.111–124(B 清算)、p.360–362(H コード)
 - 解説書:p.170–174
- 事例
 - 清算後の残高を監視し、有効期限で強制終了。
- フローチャート

B (清算)

|



H (期限消滅処理)

4. C→H(配分から期限消滅)

- 該当ページ
 - 本体:p.299–303(C 配分)、p.315(UI-7)、p.360–362(H コード)

- 解説書:p.170-174
- ・ 事例
 - 配分されたリワードが期限を迎えると自動的に失効。
- ・ フローチャート

G (配分)

|



H (時限失効)

5. D→H(履歴除外から期限消滅)

- ・ 該当ページ
 - 本体:p.185-194(D 履歴除外処理)、p.293(H 行為 No.21~23)
 - 解説書:p.170-174
- ・ 事例
 - 除外処理で残った履歴も期限が来れば強制無効化。
- ・ フローチャート

D (履歴除外)

|



H (期限到来→失効)

6. E→H(補填から期限消滅)

- ・ 該当ページ
 - 本体:p.345-350(E 補填処理)、p.360-362(H コード)
 - 解説書:p.170-174
- ・ 事例
 - 補填処理で残高加算 → 期限が来れば強制消滅。
- ・ フローチャート

E (補填)

|



H (期限消滅)

7. F→H(再通知から期限消滅)

- 該当ページ
 - 本体:p.185–194(F 再通知)、p.315(UI-7)、p.360–362(H コード)
 - 解説書:p.59–61, p.170–174
- 事例
 - 期限前に再通知 → 期限到来後に強制失効。
- フローチャート

F (再通知)

|



H (期限到来→失効)

8. G→H(残高制御から期限消滅)

- 該当ページ
 - 本体:p.293(G/H 行為 No.18–23)、p.386–387(連番表)
 - 解説書:p.166, p.170–174
- 事例
 - 残高調整(G)で減算した残高が、期限後に失効。
- フローチャート

G (残高制御)

|



H (期限消滅)

9. A→B→C→D→E→F→G→H(フル連結)

- 該当ページ
 - 本体:p.85–96(A)、p.111–124(B)、p.299–303(C)、p.185–194(D, F)、p.345–350(E)、p.293, p.360–362(G, H)、p.386–387(全連番表)
 - 解説書:p.59–61, p.132–139, p.166, p.170–174
- 事例
 - 発行(A)→清算(B)→配分(C)→履歴除外(D)→補填(E)→再通知(F)→残高制御(G)→有効期限消滅(H)。
- フローチャート

A → B → C → D → E → F → G → H



まとめ

- H パターンは「強制終了・時限消滅」の表現構造。
- 該当ページ
 - 本体:p.293, p.299–303, p.315, p.360–362, p.386–387
 - 解説書:p.59–61, p.166, p.170–174
- 保護対象
 - 期限到来を契機に自動的に失効させるコード列・API・UI。
- 事例
 - クーポンやポイントが「〇月〇日まで」と設定され、その後自動的に利用不可に。
 - 保険契約の失効処理。
 - 電子マネーの有効期限終了。